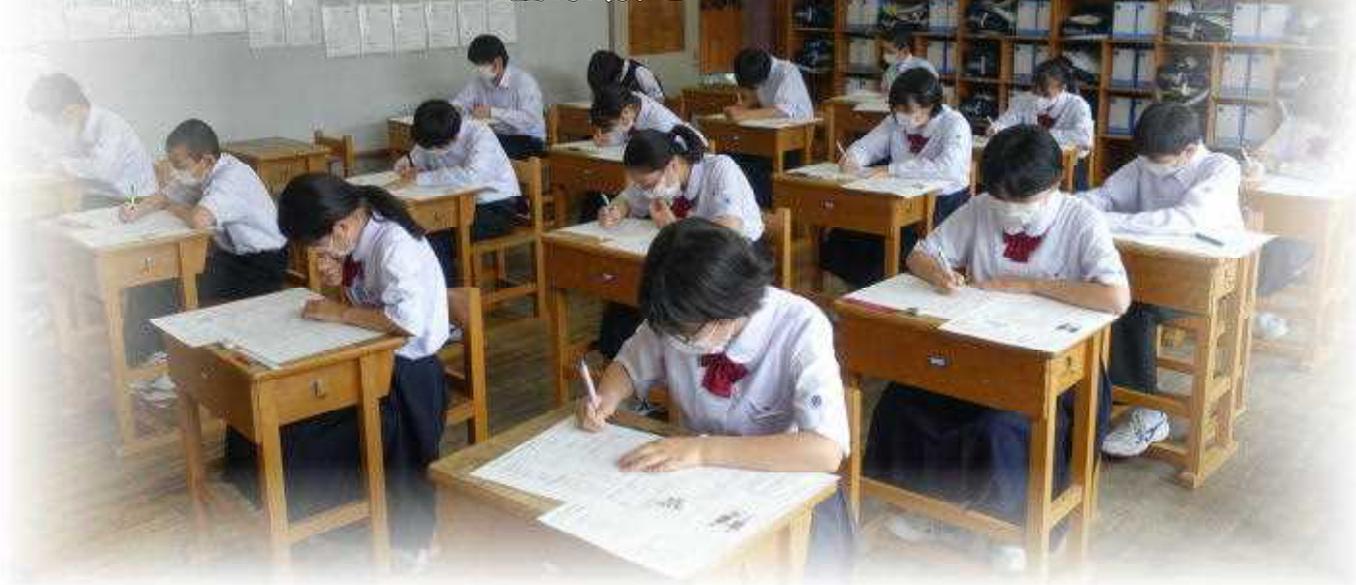




失敗を認めることが成長への第一歩

宮本慎也(元プロ野球選手 ヤクルトスワローズ)



言い訳は最大の敵

今日6月1日(水)、前期中間テストを実施しました。1年生は中学校入学後初の定期テストです。テストはいやなものかもしれませんが、テストをどう捉えるかで、目標や決意の違いが表れ、それが、取組や努力の大きな違いとなり、そして、結果に表れるのでしょうか。

**「逃げるな!道はたくさんある
逃げれば逃げ道しかない」**

金八先生

**「諦めるのはいつでもできるが
諦めないのは今しかできない」** 芸人江頭2:50氏

テストから逃げることや諦めることは簡単です。でも、子どもたちには、逃げず諦めずテストを自分を伸ばすチャンスと捉えてほしいのです。テストの結果を、今の自分の力として客観的に受け止め、反省して、その後に生かして行ってほしいのです。

しかし、テストの結果を、今の自分の力として客観的に受け止めようとしても、そこには「言い訳」が生まれることが多々あります。反省と言い訳は大きく違います。

「言い訳」こそが自分を伸ばすための最大の敵ではないかと思っています。それは、部活動でも、生活全般でも、就職して仕事をする中でも同じでしょう。

元プロ野球選手、ヤクルトスワローズの宮本慎也さんの著書「意識力」の中にこんな文章があります。

ミスの原因を突きつめて、次への対策を見付けることが反省だ。似ているようでいて、言い訳と反省は違う。ミスを認めるからこそ、反省して次に進める。それまでは、失敗をした時にミスを認めるのは、恥ずかしいことだと思っていた。なんとか言い逃れをしようとしていた。しかし、それでは反省をしたことにはならない。

失敗は誰でもするものだ。進んで失敗をする人間はいない。それを誰かや何かのせいにして逃げていたら、また同じ失敗を繰り返してしまう。

言い訳をするということは、他人に責任を転嫁することで自分のプライドを守ろうとしているだけである...

失敗を認めることが、成長への第一歩につながる。それからは、そう考えられるようになった。

特に3年生は、この後も実力テストや定期テストと、この1年多くのテストが待っています。最大の敵「言い訳」を倒すには、自分ができる最高の準備と努力をすることが大事ではないでしょうか？

「ようするに“準備”というのは、言い訳の材料となり得るものを排除していく、そのために考え得る全てのことをこなしていく、ということですね」 (イチロー)

私たち教職員もテストを活用し、その結果を踏まえながら生徒の総合的な学力(学習意欲+点数)の向上につなげていきます。